

私の歴史観

岡山歴史研究会 日本先史古代研究会

所属 山崎泰二

私は戦後の混乱期下級吏員の親の元で全てに窮した時代に、精一杯生きてきて就職に良からうと工業科を卒業後と同時に京阪神に就職し、私学の夜学に席を置いた。そこで一般教養として史学の単位を修得した。高齢で陰気な学者らしい先生（現役時代は一流の先生だったと想定）であったが忘れられない言葉が今だに残っている。尼崎の職場から守口の学舎まで自転車の通学、簡単な学食で一般教養の時間は休息（いねむり）の中での失礼な受講であった。「史学はその時代の背景を学び」「現在と未来をつなぐもの」との教えであった。この師の信念みたいなものが何故だかこの年になってやっと理解できるようになった。歴史の面白さが判ってくると、誰彼と伝えたい、広めたいと思うのが人の常であろうか、浅学の身も恐れを知ることもなく、仲間と岡山歴史研究会を立上げ押されるままにその気になっている。

しかし私はその道の専門家ではなく単なるファンで本来の専門は電気系技術の道を歩み、建築系防災業を本職にしている。ヅブの素人である。そんな私の歴史の話が面白い・判りやすいと煽（おだ）てられその気になっているお人好しと自嘲している。私の話では年代は大雑把で、固有名詞は誰でも知っている聞き手の知る範囲に限るようにしている。たとえば2・3例を挙げるなら

- 約 400 年の昔織田信長の配下であった秀吉がこの岡山備中の国で「高松城水攻め」の・・・とか
- 今から 2500 年の昔水耕稲作が伝来しその技法が今に続き我々は弥生人の末裔なのだ
- ついでに稲（こめ）は連作の難しい代表的穀物だと少しジョッキングな話を向けてみる
- 県北の人には津山の東となりの植月に一里四方の御所が 250 年も続いていた。後醍醐天皇の末裔が岡山に流王と名乗って現存しているよ!!!三種の神器が三回も岡山に来ていたのだよ・・・
- 菅総理の先祖は菅原道真で大正時代に官位を受けた菅家七流の一族だ

歴史は必ずしも真実を示していない。勝者側の都合の良いように残している面がある。その証拠に記紀の出雲神話と出雲風土記の出雲神話は大違いとする有名な話は、はっきりしている。私はそうした隠された事実を知り、そのことの方がややもすると、弱者の息遣いを感じるからである。正史や考古資料・文献資料を丹念に精査し研究し論証することは最も重要なことである。専門家の真摯な粘り強い探求に多くの学者や学徒が続いている。それらの成果はともすると狭い範囲を深く追求していてその論文は正確さを論証するために庶民には分かり辛い。一般市民に「分ってもらふ役目」の素人が居ても良いと私は勝手に信じていて、敢（あ）えて「年代と固有名詞」を多用しない歴史を語り続けたい。

記紀や魏志倭人伝の多岐に渡る固有名詞の正確さよりも、卑弥呼が生きた時代の光景やロマンを語り 2000 年の古代が今に続く歴史観が大切と思う。その方が聞く側にもやさしいと思うのだ。私の近くに岡山市のふれあいセンターがある。ここは老人・子供や福祉系の方の利用がしやすい施設だから、当然健常者も利用しやすい。多くの市の施設の中で突出した利用率なのだ。一般紙の中にこども向けの記事や紙面が大人に人気なものと同じ視線なのだろう。難しいことを解りやすくそれが本当の専門家だと先人に聴いた。そうした年齢を重ね古稀まで生きた。

2012.24.6.9 朝